

コストコホールセールジャパン株式会社に対する勧告について

令和6年3月12日
公正取引委員会

公正取引委員会は、コストコホールセールジャパン株式会社（以下「コストコホールセールジャパン」という。）に対し調査を行ってきたところ、下請代金支払遅延等防止法（以下「下請法」という。）第4条第1項第3号（下請代金の減額の禁止）及び第4号（返品禁止）の規定に違反する行為が認められたので、本日、下請法第7条第2項の規定に基づき、同社に対し勧告を行った。

1 違反行為者の概要

法人番号	3020001079681
名称	コストコホールセールジャパン株式会社
本店所在地	千葉県木更津市瓜倉361番地（金田西2街区2画地）
代表者	代表取締役 ケン・テリオ
事業の概要	食料品等の販売
資本金	95億500万円

2 違反事実の概要

(1) コストコホールセールジャパンは、資本金の額が3億円以下の法人たる事業者に対し、消費者等に販売する食料品及びその原材料の製造を委託している（これらの事業者を以下「下請事業者」という。）。

(2) コストコホールセールジャパンは、次のア及びイの行為により、下請事業者の責めに帰すべき理由がないのに、下請代金の額を減じていた。減額した金額は、総額3350万3828円である（下請事業者20名）。

ア 令和3年11月から令和5年10月までの間、「クーポンサポート」^(注1)の額を下請代金の額から差し引き又は支払わせていた。

イ 令和3年11月から令和5年6月までの間、「オープニングサポート」^(注2)の額を下請代金の額から差し引き又は支払わせていた。

(注1) 商品販売時におけるプロモーション（値引き販売）の原資としていたもの。

(注2) 新規開店に際して行うプロモーション（試食や値引き販売）の原資としていたもの。

問い合わせ先	公正取引委員会事務総局経済取引局取引部下請取引調査室 電話 03-3581-3374（直通）
ホームページ	https://www.jftc.go.jp/

- (3) コストコホールセールジャパンは、下請事業者に対し、下請事業者から商品を受領した後、当該商品に係る品質検査を行っていないにもかかわらず、当該商品に瑕疵があることを理由として、令和3年11月から令和5年12月までの間、下請事業者の責めに帰すべき理由がないのに、当該商品を引き取らせていた。返品した商品の下請代金相当額は、総額199万8476円である（下請事業者11名）。
- (4) コストコホールセールジャパンは、令和6年2月16日、下請事業者に対し前記(2)の行為により減額した額及び前記(3)の行為により返品した商品の下請代金相当額を支払っている。

3 勧告の概要

- (1) コストコホールセールジャパンは、次の事項を取締役会の決議により確認すること。
 - ア 前記2(2)の行為が下請法第4条第1項第3号の規定に違反するものであること
 - イ 前記2(3)の行為が下請法第4条第1項第4号の規定に違反するものであること
 - ウ 今後、前記各号の規定に違反する行為を行わないこと
- (2) コストコホールセールジャパンは、今後、下請法第4条第1項第3号及び第4号の規定に違反する行為を行うことがないように、自社の発注担当者に対する下請法の研修を行うなど社内体制の整備のために必要な措置を講ずること。
- (3) コストコホールセールジャパンは、次の事項を自社の役員及び従業員に周知徹底すること。
 - ア 前記(1)及び(2)に基づいて採った措置
 - イ 前記2(4)の対応を採ったこと
- (4) コストコホールセールジャパンは、次の事項を取引先下請事業者に通知すること。
 - ア 前記(1)から(3)までに基づいて採った措置
 - イ 前記2(4)の対応を採ったこと
- (5) コストコホールセールジャパンは、前記(1)から(4)までに基づいて採った措置を速やかに公正取引委員会に報告すること。

コストコホールセールジャパン(株)
(食料品等の販売)
(親事業者)

下請事業者(23名)

● 下請取引の内容

消費者等に販売する食料品及びその原材料の製造委託



● 違反行為の概要 ①減額、②返品は約3550万円

① 下請事業者20名に対し、下請代金の額から約3350万円を減額した(注1)

(内訳)

クーポンサポート※：約2863万円(下請事業者数 6名)

(※商品販売時におけるプロモーション(値引き販売)の原資としていたもの。)

オープニングサポート※：約487万円(下請事業者数19名)

(※新規開店に際して行うプロモーション(試食や値引き販売)の原資としていたもの。)

② 商品を受領した後、納品時の品質検査を行っていないにもかかわらず、瑕疵があることを理由として、下請事業者11名に対し、約200万円の商品を返品した(注2)

※コストコホールセールジャパンは、下請事業者に対し、減額及び返品した金額を支払済み



公正取引委員会からの勧告の内容

- 以下の2点について、取締役会の決議により確認すること
 - ・ 上記①の減額行為及び上記②の返品行為が下請法の規定に違反するものであること
 - ・ 今後、下請代金の減額及び返品を行わないこと
- 下請法の遵守体制を整備すること など

(注1) 下請代金の減額

下請法は、下請事業者に責任がないのに、発注時に定められた金額から一定額を減じて支払うこと等を全面的に禁止。値引き、協賛金、歩引き等の名目、方法、金額の多少を問わず、また、下請事業者との合意があっても、下請法違反に該当。

(注2) 返品

下請法は、下請事業者に責任がないのに、発注した物品等を受領後に返品することを禁止。納品時に品質検査を行っていないのに、物品等を受領した後不良品が見つかったとして返品することや、直ちに発見できない瑕疵であっても受領後6か月を超えて返品することは、下請法違反に該当。

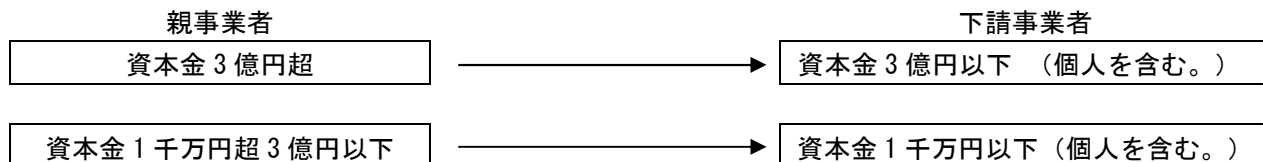
1 下請法の概要

○ 目的（第1条）

下請取引の公正化・下請事業者の利益保護

○ 親事業者、下請事業者の定義（第2条第1項～第8項）

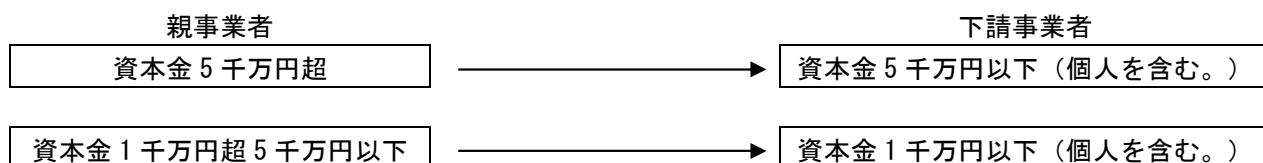
a. 物品の製造・修理委託及び政令で定める情報成果物作成・役務提供委託



※ 政令で定める情報成果物作成委託…プログラム

政令で定める役務提供委託…運送、物品の倉庫における保管、情報処理

b. 情報成果物作成・役務提供委託（政令で定めるものを除く。）



○ 親事業者の義務（第2条の2、第3条、第4条の2、第5条）及び禁止事項（第4条第1項、第2項）

a. 義務

- (7) 書面の交付義務（第3条）
- (イ) 書類の作成・保存義務（第5条）
- (ウ) 下請代金の支払期日を定める義務（第2条の2）
- (エ) 遅延利息の支払義務（第4条の2）

b. 禁止事項

- (7) 受領拒否の禁止（第4条第1項第1号）
- (イ) 下請代金の支払遅延の禁止（第4条第1項第2号）
- (ウ) 下請代金の減額の禁止（第4条第1項第3号）
- (エ) 返品物の禁止（第4条第1項第4号）
- (オ) 買ったたきの禁止（第4条第1項第5号）
- (カ) 購入・利用強制の禁止（第4条第1項第6号）
- (キ) 報復措置の禁止（第4条第1項第7号）
- (ク) 有償支給原材料等の対価の早期決済の禁止（第4条第2項第1号）
- (ケ) 割引困難な手形の交付の禁止（第4条第2項第2号）
- (コ) 不当な経済上の利益の提供要請の禁止（第4条第2項第3号）
- (ク) 不当な給付内容の変更・やり直しの禁止（第4条第2項第4号）

2 参照条文

○ 下請代金支払遅延等防止法（抄）

（昭和三十一年法律第二百十号）

（定義）

第二条 この法律で「製造委託」とは、事業者が業として行う販売若しくは業として請け負う製造（加工を含む。以下同じ。）の目的物たる物品若しくはその半製品、部品、附属品若しくは原材料若しくはこれらの製造に用いる金型又は業として行う物品の修理に必要な部品若しくは原材料の製造を他の事業者へ委託すること及び事業者がその使用し又は消費する物品の製造を業として行う場合にその物品若しくはその半製品、部品、附属品若しくは原材料又はこれらの製造に用いる金型の製造を他の事業者へ委託することをいう。

2～6 （略）

7 この法律で「親事業者」とは、次の各号のいずれかに該当する者をいう。

- 一 資本金の額又は出資の総額が三億円を超える法人たる事業者（政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和二十四年法律第二百五十六号）第十四条に規定する者を除く。）であつて、個人又は資本金の額若しくは出資の総額が三億円以下の法人たる事業者に対し製造委託等（情報成果物作成委託及び役務提供委託にあつては、それぞれ政令で定める情報成果物及び役務に係るものに限る。次号並びに次項第一号及び第二号において同じ。）をするもの

二～四 （略）

8 この法律で「下請事業者」とは、次の各号のいずれかに該当する者をいう。

- 一 個人又は資本金の額若しくは出資の総額が三億円以下の法人たる事業者であつて、前項第一号に規定する親事業者から製造委託等を受けるもの

二～四 （略）

9 （略）

10 この法律で「下請代金」とは、親事業者が製造委託等をした場合に下請事業者の給付（役務提供委託をした場合にあつては、役務の提供。以下同じ。）に対し支払うべき代金をいう。

（親事業者の遵守事項）

第四条 親事業者は、下請事業者に対し製造委託等をした場合は、次の各号（役務提供委託をした場合にあつては、第一号及び第四号を除く。）に掲げる行為をしてはならない。

一、二 （略）

三 下請事業者の責に帰すべき理由がないのに、下請代金の額を減ずること。

四 下請事業者の責に帰すべき理由がないのに、下請事業者の給付を受領した後、下請事業者にその給付に係る物を引き取らせること。

五～七 （略）

2 （略）

（勧告）

第七条 （略）

2 公正取引委員会は、親事業者が第四条第一項第三号から第六号までに掲げる行為をしたと認めるときは、その親事業者に対し、速やかにその減じた額を支払い、その下請事業者の給付に係る物を再び引き取り、その下請代金の額を引き上げ、又はその購入させた物を引き取るべきことその他必要な措置をとるべきことを勧告するものとする。

3 （略）